

雨水を放流するための鶴巻ポンプ場を訪れ、下水管の中を見学。



**日本の設備は参考になります**

河川管理を行っている京浜河川事務所(横浜市)を視察した。

## 課題別研修

@宮城県仙台市

# 適切な下水道管理を学ぶ

管理が必要な下水道インフラのある途上国を対象に、宮城県仙台市建設局の協力を得て研修が行われている。

**案件名** 課題別研修「災害リスク管理に配慮したアセットマネジメントを活用した下水道資産の適正管理」



北部水道センターを見学。

先進的な下水道施策を実施



仙台市は2014年に全国に先駆けて、構造物など資産の使用価値を最大限にするための国際規格であるISO55001を取得し、アセットマネジメントを確立している。同市の先駆的な経験は、研修員の学びにつながっている。また、東日本大震災で各地から下水道復興支援を受けた経験から、国内外への技術協力・支援を推進している。



仙台市役所を表敬訪問した研修員。前列左端が星さん。

「自然災害が多い中南米諸国で下水道事業を担当する人々を対象にした研修が、2016年から、仙台市で行なわれている。同地域では、下水処理システムは有していても、老朽化や詰まり、破損、漏水など不良箇所を抱えている国が多い。地震など災害でシステムが止まれば経済・社会的影響は甚大だ。「そうならないためには日常的な施設の維持管理と的確な状態把握、中・長期的な更新計画の策定と実施が不可欠です」と、研修のコースリーダーを務めた公益社団法人青年海外協力協会JOC A東北代表の星英次さんは説明する。

そこで下水道処理システムを資産(アセット)にとらえ、管理に必要な基本情報(たとえば施設の状態や建設時期、下水管の埋設場所など)から合理的にシステムを管理する手法(アセットマネジメント)を伝授するのが研修の目的だ。「下水道システムの老朽化対策や、多くの地震や災害の経験をもとに、仙台市は社会インフラの機能を持続可能にするためのリスク管理手法としてアセットマネジメントを確立してきました。その経験が同様の課題を抱える途上国で生かれます」。

研修の期間は約1か月。アセットマネジメントの手法を学びながら、下水処理施設の現場を視察。最後に研修成果として発表する自国での活用計画では、ビデオモニタリングによるリスク評価を取り入れた研修員もいれば、帰国後にプランを完成させてメールでコメントを求めた研修員もいたと星さんはふり返る。「研修員たちが抱える下水道分野の課題は多様ですが、すぐに解決できないことも多い。だからこそ途上国の生活を下支えする下水道施設管理に協力する必要性を強く感じています」。この研修は20年度から対象を全世界に広げ、災害リスクのみならず老朽化などさまざまな課題に対応することを目指し、「アセットマネジメントを活用した下水道資産の適正管理」というタイトルで継続することになった。下水道事業に携わる多くの人たちが日本で学ぶ日を待っている。